

# 第88回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナー(香川)

四国本部 事業委員  
丸山 正  
MARUYAMA TADASHI



## 1. 概要

2023年7月10日(月)、高松市のホテル パールガーデンにて、第88回 CPD セミナー・公開講座・防災セミナーおよび令和4年度第二次試験合格者祝賀会を開催した。

参加人数は会場が96名、WEB参加が4名でコロナ禍前の規模に戻ったと思われる。

表-1 プログラム

### 1. CPD セミナー(14:10~15:40)

演題:「研究成果の社会実装—近赤外光照射による青果物鮮度保持技術(IR フレッシュ)を例として」

講師: 石田 豊氏 ((株)四国総合研究所)

### 2. 公開講座(防災セミナー)(15:50~17:00)

演題:「人と人をつなぐ~防災・社会活動をカジュアルに日常に~」

講師: 片山 あゆみ氏 (むれコミュニティ協議会)

### 3. 懇親会(17:30~19:30)

(1)開会挨拶 副本部長 末澤 等氏

(2)中締め 事業委員長 谷脇 準蔵氏



写真-2 石田氏ご講演

CPD セミナーでは(株)四国総合研究所の石田豊氏より研究成果の社会実装に関する講演があった。石田氏には数年前に今回講演のもととなる研究成果について講演を行っていただいたが、今回はその技術の商品化・事業化に至る報告である。

要素技術は収穫後の青果物に近赤外光を照射することで水分の蒸散を抑制し鮮度保持効果を長時間維持しようとするものである。一つのアイデアがビジネスになるにはいくつかの超えるべき”死の谷”がある。今回の例でいうと、ひとつ目が近赤外光の照射時間と出力の関係を明らかにし生産ラインに実装できるレベルにした時、二つ目がいくつかの企業とライセンス契約を結び商品化できた時、そしてこれから全国の様々な青果物の生産拠点への実装されるようになると最後の谷を越えたことになる。幸運もあつただろうがそれよりはるかに多くの困難に立ち向かい、研究成果を社会に提供していく様は感銘を受けるとともに、模範すべきものと思った。

青果物の鮮度保持は四国のような大消費地から遠い生産地には有効であると感じた。また物流の2024年問題やSDGsを解決する一助となる技術であるとも思った。



写真-1 天羽本部長挨拶

## 2. CPDセミナー

### 3. 公開講座(防災セミナー)

公開講座では高松市にある、むれコミュニティ協議会の片山あゆみ氏よりコミュニティセンターにおける子供の居場所づくりなどについて紹介があった。



写真-3 片山氏ご講演

片山氏の自己紹介の後、ラジオ体操(大阪弁)・ミニゲームで会場のクーラーにより冷えた体を温めた(いわゆるアイスブレイク)。

本センターでは学校・家庭で活躍できない・居場所のない子供が生き生きと出来る場所の提供から始め、現在は”ハロハロむれキッズ”というタイトルで家庭教育支援を主目的として各種活動を行っている。活動のほとんどがボランティアで苦しい内情も知ることが出来た。我々の日常からは見えにくいひずみに光を当て、修復していく大切な活動に敬意を表したい。技術士会でも社会貢献活動で防災・理科教育などを行っているが、本当に援助を要する人をイメージし、伝わっているか考えさせられる講演であった。

### 4. 第二次試験合格者紹介

今回 4 名の新合格者の参加があり、受験時の苦



労やこれからの抱負など一人ずつコメントをもらった。これから技術士として活躍することを祈るとともに、技術士会の活動を通して多種多様な技術者との交流を楽しんでもらいたいと思った。

### 5. 懇親会

懇親会は末澤副部長の挨拶・乾杯で始まり、谷協事業委員長の中締めまで約 2 時間歓談することが出来た。着席形式の会場であったが中盤にはほとんど立食のような状態になり活発な交流が出来たと思われる。



写真-5 乾杯・中締め

以上